

中国の高校生たちと交流しました！～「日中植林・植樹国際連帯事業」2019年度中国高校生訪日団第3陣訪問～

12月6日（金）、中国の高校生30名が本校を訪問し、本校生徒40名（高1希望者11名、高2希望者29名）と交流しました。今回の訪問は、「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環で、中国陝西省西安市の西安外国語大学附属西安外国語学校から15名（高1生11名、高2生4名）、西安市鉄一中学校から15名（全員高1生）が参加していました。

■開会行事



まず始めに、野田校長先生が歓迎のあいさつを日本語で述べられたあと、訪日団団長のごあいさつが中国語でありました。それぞれのあいさつは、通訳の方が互いの言語に訳されていましたが、そのスピードと的確な表現に、本校生徒たちからは感嘆の声が上がっていました。また、本校からは中山浩思さん（2年6組）が中国語で歓迎のあいさつを述べた後、田邊蒼来さんと田口佳南さん（共に2年6組）が英語で学校紹介のプレゼンテーションを行い、また八尾裕大さん（2年7組）と松嶋倫子さん（2年6組）がSGHで取り組んでいるテーマ「ハザードマップの見づらさを改善し、災害時の生活用水を確保する」について英語でプレゼンテーションを行いました。その後、2つのプレゼンテーションの内容について、簡単なグループディスカッションを行いました。この頃には互いに打ち解け合って、活発な議論がなされました。また、本校生徒のプレゼンテーションに触発されたのか、西安外国語大学附属西安外国語学校の生徒さん1名が、飛び込みで西安外国語学校を紹介するプレゼンテーションを流暢な英語で披露してくれました。

■文化交流

本校で書道を担当していただいている羽生小春先生のご指導の下、参加生徒たちは、扇子に筆でメッセージを書きました。どんな言葉を書こうかと迷いながらも、出来上がった作品には世界の平和を願う言葉や、今日の出会いを記念するような言葉が溢れていました。なかには、中国高校生から、「日本の新元号『令和』の由来となった『初春令月、気淑風和』を扇子に書こうと提案されて感動しました。」という生徒もいました。完成した扇子は、訪日団の皆さんにお土産としてプレゼントされました。その後、片付けをしているときに、西安外国語学校の有志グループが、大事MANブラザーズバンドの「それが大事」を、軽やかな振り付けと共に日本語で歌うパフォーマンスを披露してくれて、さらに場を盛り上げてくれました。



■授業体験・スポーツ交流



昼食後、訪日団の皆さんは、それぞれ本校生徒のパートナーが受ける授業に参加しました。科目はそれぞれ違っていました。日本の授業風景を目に焼き付けたことでしょうか。訪日高校生の中には、柔道の授業に参加し、積極的に体を動かしていた人もいたようです。世界史の授業に参加した生徒からは「中国の高校生は自分の国の歴史にとっても詳しく、私にたくさんのことを教えてくれました。」と驚き、「国を越えて交流するときには、自分の国のことをしっかりと知る必要があると感じました。」との感想が聞かれました。授業体験を済ませた後、2つのグループに分かれて、卓球とバドミントンで交流しました。言葉がなかなか通じない中でも、自分たちで工夫してゲームをしたり、ラリーをしたりして、会場には笑い声が響き合っていました。

■記念植樹

最後に、交流の記念として、「紫陽花の道」の両脇に、常緑ヤマボウシ2本の植樹を行いました。まず、野田校長先生と訪日団団長の方が植樹を行い、その後、訪日高校生と本校生徒がそれぞれペアになって、シャベルでひとすくいずつ、苗木に土をかけました。気温が低く、寒さに震えながらの植樹になりましたが、忘れられない交流の記念になりました。



■閉会



最初は緊張感もありましたが、お別れの頃には今日初めて会ったとは思えないほどに会話が弾んでいました。バスが来ても、訪日高校生の皆さんは名残が惜しいのかなか乗り込もうとはせず、最後の瞬間まで交流を楽しんでくれました。本校生徒からは「価値観の違いを感じることもあったけど、その違いを認めることでわかり合えることが実感できた」「ニュースでは日中間の問題をよく聞くが、私たちの交流には問題はなかった。だから私たちから友好関係を広げていきたい」など、国境を越えて良好な関係を築くことに前向きな感想が多く聞かれました。